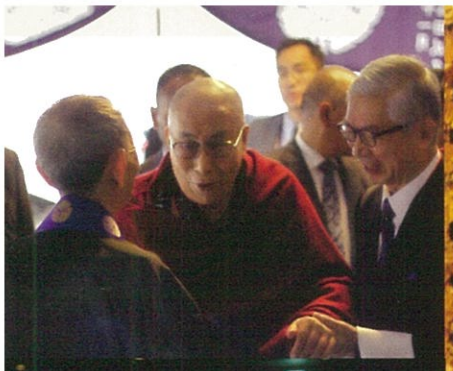
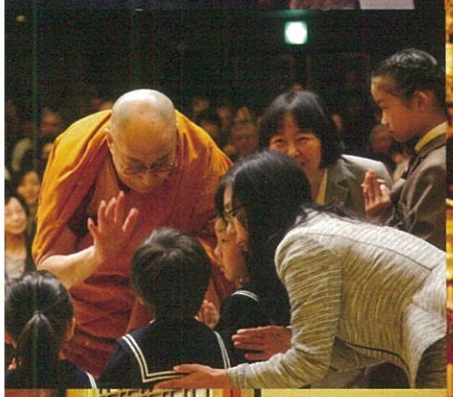
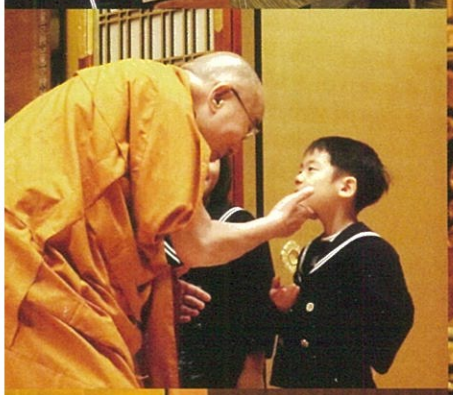
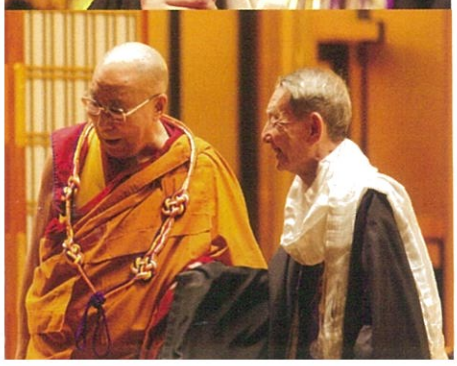


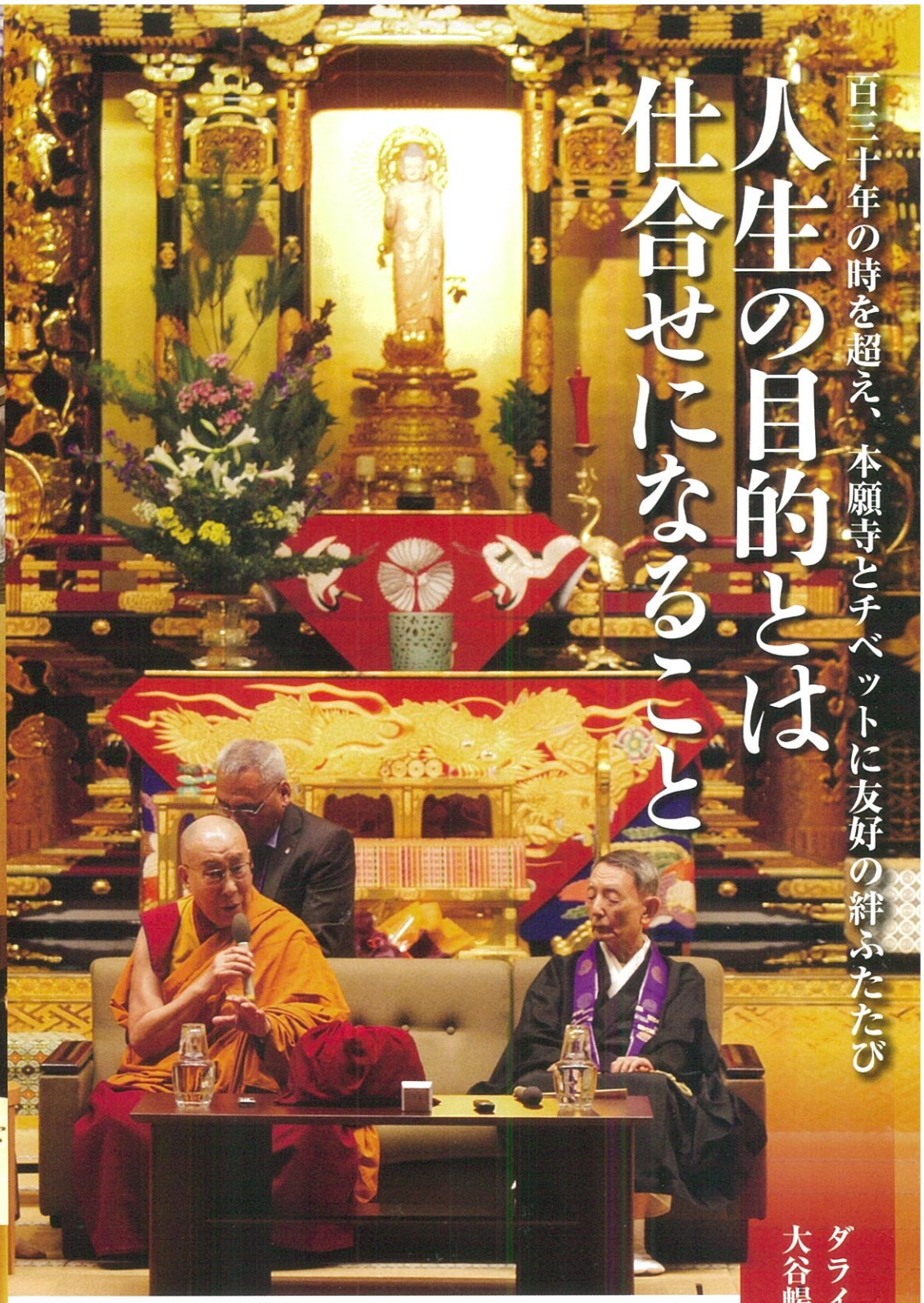






百三十年の時を超え、本願寺とチベットに友好の絆ふたたび

人生の目的とは仕合せになること



ダライ・ラマ法王十四世・
大谷暢順本願寺法主　共同声明

京都の社寺で初の公式参詣

二〇一六年十一月九日、チベット佛教の最高指導者、またノーベル平和賞受賞者としても知られるダライ・ラマ法王十四世が東山浄苑東本願寺を表敬訪問。京都の社寺では初となる公式参詣を行い、迎える大谷暢順本願寺法主とともに、「慈悲と思いやりの心をもって世界中の人々が仕合せになるよう努力していく」との共同声明を宣言。調印を行いました。

その日、東山に
大きく美しい
虹が架かった——

感恩

その日は朝から、東山のなだらかな山並みに大きな虹が幾度も架かりました。甘露の雨が降る最中にも、雲間から陽光が射し込み、雨粒をキラキラと輝かせる――、その美しさに息をのむそばから七色の虹の橋があらわれるのです。

ダライ・ラマ法王十四世の東山浄苑東本願寺公式参詣。まるで空までが得難い佛縁を祝福するかのような光景の中、東山三十六峰に連なる、六條山の聖地において、記念すべき式典が幕を開けました。

佛縁にみちびかれ 百三十年ぶりの邂逅

東本願寺とチベットの縁は深く、その始まりは、大谷暢順法主の曾祖父、東本願寺二十二世・現如上人の時代に遡ります。往時、上人がダライ・ラマ法王十三世への親書を託し、我が国初のチベットへの公式な使者として、僧侶 能海寛を派遣。そこから約百三十年の時を経て、今回の公式参詣のご縁が結ばれ、ここに意義深い交流が再開したのです。

当日は、浄苑の一室で法王の訪問を受けるはずの大谷暢順法主が、玄関へ出向き法王一行の到着を迎える最大級の歓待でスタート。公式参詣というセレモニアルな行事の緊張感が、心のこもるお迎えで一瞬にやわらぎ、とてもなごやかな空気に包まれました。

公式参詣を記念し、会所の東山浄苑東本願寺嘉枝堂には全国から約六百人の方が参集。「佛法が、混迷する国際社会を照らす一筋の光明にならんことを」との大谷光輪門主挨拶の後、一同、佛旗を振っての熱い歓迎の中、両師の入堂となりました。

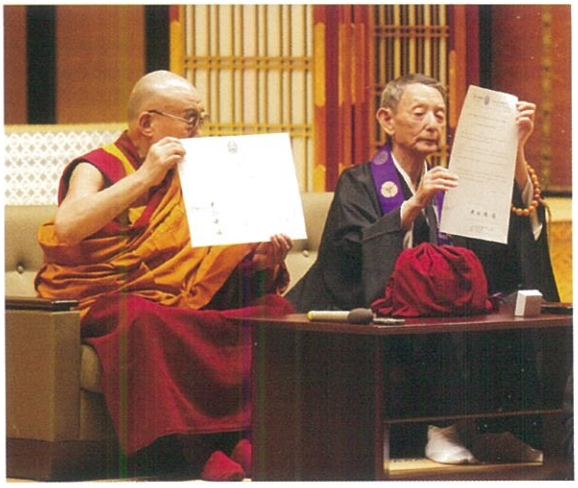
その折、愛らしい歌声でお迎えしたのが、京都きらら学園（京都市下京区）の園児たち。「ありがとうの花」の合唱に、法王は、膝を折り体を屈め、園児ひとりひとりを抱擁、祝福を授けて清らかな歓迎の心に応えます。

そしていよいよ、両師は御本尊を仰ぐ外陣で、参集の人たちも共々に、阿弥陀如来に合掌。何とも温かな法悦が満ちる堂内で、滞りなく参詣が行われました。

思いやりの心とは、
畢竟、
恩を感じ合う事であると
私は思います。

我々は日常、忌まわしい報道を見聞きしますと、切歯扼腕して世を嘆くことがあります。然しそんな事をしても、世の中は少しもよくなりません。不幸の種を探し、自身を不幸に追い込んでいるのです。それよりも仕合せを意識し、「恩」の大切さを感じる心を育む――。恩を与える者、それを受けて有難いと感じる者の**「感応道交」、心の通じ合いこそが必要で、そこから皆が仕合せになる道が開けてくる**と私は思っています。

大谷暢順（おおたに ちょうじゅん）
1929年生まれ。東京大学文学部、ソルボンヌ高等学院卒業。パリ第7大学で文学博士号取得。本願寺法主として法統を守る一方、一般財団法人本願寺文化興隆財団理事長、ジャポニスム振興会会長として、日本のこころと文化を次代へと繋ぐべく、多くの文化事業に力を尽くす。



熱弁に汗する法王に大谷法主が扇子をそっと……

続いて法王は「二十一世紀を生きる佛教徒」として、自ら学び考えて教えを分析し、調べてみるという姿勢の大切さを力説。同時通訳を通しながらも、そのお話は、明快、明晰でエネルギーに溢れ、人々の胸に響きます。その後、「さあ、質疑応答のセッションをしましょう」との法王の提案のもと、質問も数多く寄せられ、予定時間をはるかに超える盛り上がりに。

そのような時間のなかで、自身の発言は極力控え、法王と参集の人々の触れ合いの機会を尊重する大谷法主の姿は、まさに「思いやり」を体現するかの如くで、実に印象的でした。そして時には、熱弁に汗する法王に、自らの扇子をそっと手渡すシーンも。

熱い思いと温かな慈悲。それらが相和し、共鳴する美しい式典の締めくくりには、両師が「佛法をもってより良い社会を目指す」との共同声明に調印。法王からは貴人に贈る「カタ」と呼ばれるチベットの白布を、法主からは自ら考案し命名した「修多羅袈裟（しゅたらげさ）」を互いに掛け、人類の仕合せを願い、ともに歩む決意を確かめ合いました。それが形式上でなく、不屈の願いと希望に基づくものであることを、参集の誰もが実感したのではないでしょうか。

なごやかに昼食 法王の好物はおうどん！

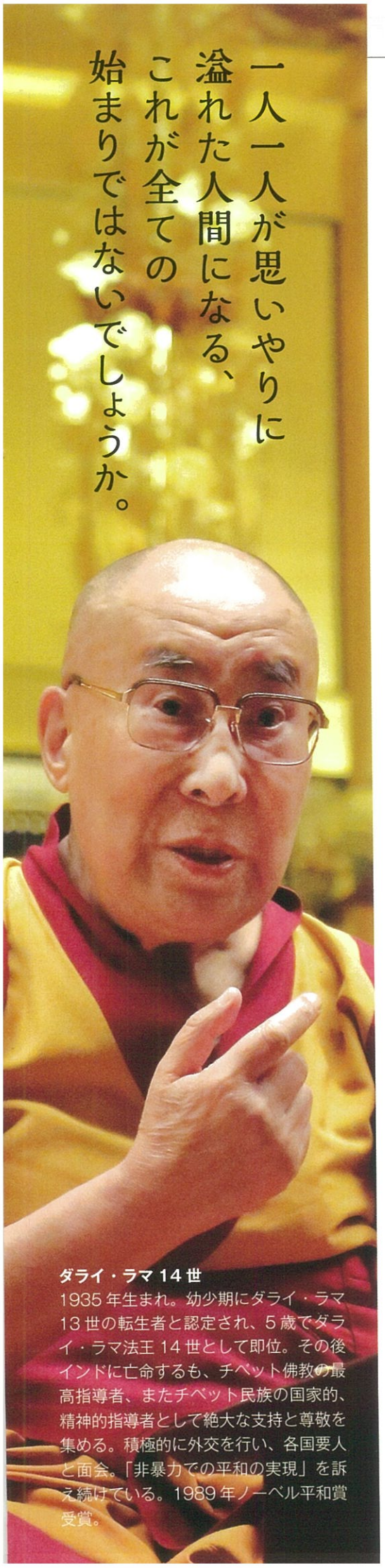
感動のうちに散会の後、大谷家、家族ぐるみの歓迎の昼食会では、法王のリクエストに応え、おうどんでおもてなし。聞けばチベットにも同様の麺類があり、法王はそれが大好物とか。昼食会でもお替わりされるほどのお気に召しようで、その席でも多岐にわたりお話が弾んだ様子です。

再会を約し、名残りを惜しみつつ、法王は東山をあとに。その時またも、山々に大きな虹が架かるのを多くの人が目にしたそうです。

思いやり

私たちの心が怒りや疑惑など負の感情に覆われていると、知らないうちに他者を害する、という行為をしてしまうことになります。いっぽう、私たちの心が相手を思いやる、優しく接するといった愛と慈悲に溢れている場合、身口意（しんくい）（体・言葉・心）の行いのすべてが良きものとなって表れます。**他者の幸福を心から願うなら、自然に人間社会の中で人をいじめたり、搾取したり、害を与えたりということを減らしていける**ように思います。

一人一人が思いやりに
溢れた人間になる、
これが全ての
始まりではないでしょうか。



ダライ・ラマ 14 世
1935 年生まれ。幼少期にダライ・ラマ 13 世の転生者と認定され、5 歳でダライ・ラマ法王 14 世として即位。その後インドに亡命するも、チベット佛教の最高指導者、またチベット民族の国家的、精神的指導者として絶大な支持と尊敬を集める。積極的に外交を行い、各国要人と面会。「非暴力での平和の実現」を訴え続けている。1989 年ノーベル平和賞受賞。

Q「平和」について

私たちは、まず何をすべきでしょう。

A 自分自身の「心の中の非武装化」。これが第一歩です。

これは単に外の世界で起きている戦争や争い事を無くすという事ではありません。それ以前に、自身の心の中に、他者に対する優しさや思いやりを育む。そうすればまず、自分自身を一人の幸せで平和な人間として築いていくことができます。それができれば自分の家族を平和な家族にできます。

次に社会、次にこの世界に住むすべての人間家族へと、段階を踏んで広げていくことが必要だと考えているわけです。まずは自分自身が、他者に対して何らかの害を与える、争いをしかけるといった気持ちを静めて無くしていくことが最初の一歩なのです。

Q「空」について

勉強したいと思いますが、何かアドバイスを——。

A よく眠って、よく食べることが、まず大切です。

もし食べたり、眠ったりする時間があるのなら、佛教を学ぶ時間を、二十四時間のうち一時間だけ確保することは決して難しいことではないでしょう。夜、眠る時、時々眠れないことがありますね？そのような時を、佛教について考える時間にあててみてください。

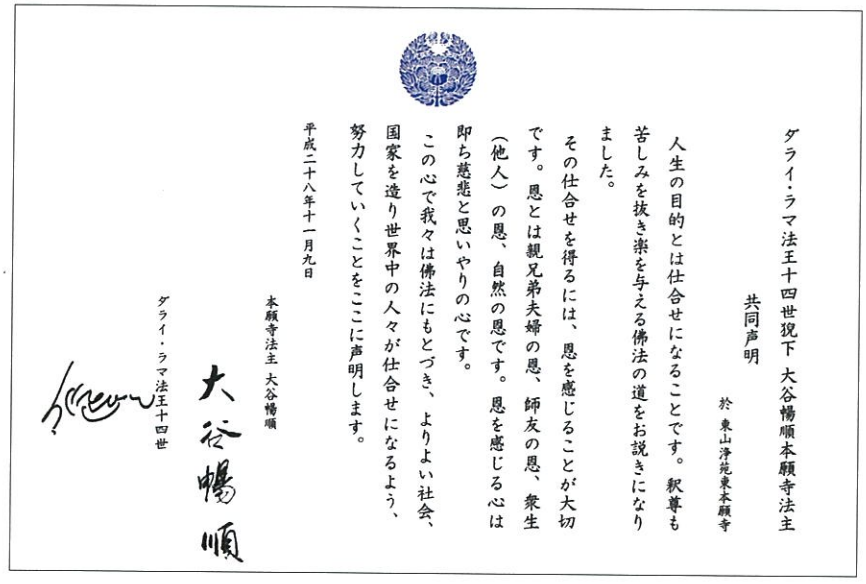
分析のための瞑想は非常に大切で、私たちの心に良い変化をもたらしてくれます。たとえば「空」なら空について分析して考えるということがご自身のために役に立ちます。

ダライ・ラマ法王14世猊下来苑記念行事に寄せて

ダライ・ラマ法王猊下、本日は遠方より、東本願寺にお成り頂き、有難い説法をお説き下さいました事、厚く御礼申し上げます。人生の目的は仕合せになる事であると、誠に目の覚めるようなお言葉であります。数限りない御苦労、御心痛を重ねて来られた善知識から、かかる力強い獅子吼を頂戴し、当に落雷に遭う惟いであります。

この御堂にてともに御本尊を拝し、佛法を語り合えた佛縁を、深く慶んでおります。

大谷暢順



ダライ・ラマ法王十四世猊下　大谷暢順本願寺法主
共同声明
於 東山浄苑東本願寺

人生の目的とは仕合せになることです。釈尊も苦しみを抜き楽を与える佛法の道をお説きになりました。

その仕合せを得るには、恩を感じることが大切です。恩とは親兄弟夫婦の恩、師友の恩、衆生（他人）の恩、自然の恩です。恩を感じる心は即ち慈悲と思いやりの心です。

この心で我々は佛法にもとづき、よりよい社会、国家を造り世界中の人々が仕合せになるよう、努力していくことをここに声明します。

平成二十八年十一月九日

本願寺法主　大谷暢順

ダライ・ラマ法王十四世

佛法興隆共同声明

文責：『JAPONisme』編集部

一般財団法人 本願寺文化興隆財団・ジャポニスム振興会　http://japonisme.or.jp
〒607-8461 京都市山科区上花山旭山町8-1　Tel. 075-541-8391　Fax. 075-525-2095　info@japonisme.or.jp